

# 2019年度保育園の自己評価

オレンジ第2保育

1、保育理念・保育観		評価	評価の根拠・改善方法
1	保育士一人一人が、オレンジ第2保育園の保育理念・保育方針を理解している。	A	採用時や全体研修などで理事長より具体的に伝えている。
2	オレンジ第2保育園の保育方針を理解して保育計画が立てられている。	B	保育園の全体的計画から各年齢の年間計画月案、週日案へと繋げて作成している
3	常に保育方針や保育観を確認できるような機会を作っている。	A	園内研修の中で、グループワークを行い意見交換するようにしている。
4	一人一人の主体性を大切にした保育をしている。	B	子どもの思いを大切に、指示・命令・禁止語を極力使わないように努めている。
5	保護者の子育てを支え、子育ての喜びを共感している。	B	保護者参加型の行事を多く取り入れ、子どもの成長の姿が感じられるように工夫している
2、保育計画・指導計画			
1	保育方針の、ねらい及び内容が達成できるような全体的な計画や保育計画を立てている	A	保育所保育指針に基づき、全体的な計画、年間計画を立てている
2	保育計画に基づき、子ども一人一人の発達の姿や興味を把握して年間計画、月案、週案を立てている	B	子どもの姿に照らし合わせ、保育内容を振り返り、改善して計画を立てている
3	3歳未満児は、現在の姿を理解し、見通しをもって一人一人に応じた保育計画を立てている。	B	個別計画を立てて、一人一人に合わせた発達の見通しをもって計画を立てている
4	配慮の必要な子には、その子に応じた保育計画を立てている。	B	特別支援を必要とする子は、現在在園していないが、発達の気になる子に対して個別配慮をしている
3、食育			
1	食育の重要性を理解し、季節や年齢に合わせて食育計画を立てている。	B	食育年間計画を立てて、それぞれに年齢に応じた体験が出来るように実践している
2	調理士、保育士等が連携し、会議等で意見を交わし合いながらより良い給食になるよう努めている。	B	毎月1回、給食会議を開き、各年齢の給食状況や食育活動の様子など意見交換をしている
3	出来るだけ地元の食材や旬の食材を取り入れ、様々な食材を味わえるようにしている。	A	地元の青果店から食材を取り入れ、また子ども達が植栽した野菜なども活用している
4	給食やおやつは手作りをしている。	A	自園調理を行っている
4、職員構成・役割分担・研修			
1	職員の仕事や役割が明確であり、連携を取って円滑な園経営が出来ている。	B	年度初めに業務分担を表にして張り出し、役割分担して連携を取っている。
2	危機管理意識を持ち、緊急時に対応できる体制が出来ている。	A	全体研修で、危機管理マニュアルを読み合わせ、心肺蘇生訓練・避難訓練等を実施している
3	職員が割り当てられた業務分担を把握し、園の保育や内容を深めるために、それぞれが活発に活動している。	B	役割分担された業務を行い、企画書や報告書を提出している
4	園内研修と園外研修の計画を立てて実行している。	A	年間研修計画を立てて実施している。
5	施設整備や遊具等の安全点検を行っている。	B	業務分担の中に、安全点検項目を設け定期的に点検を行っている
5、保護者支援			
1	保護者と良好な関係をつくらうとしている。	A	保育者側から積極的に、挨拶・声かけを行い話しやすい雰囲気づくりを心掛けている
2	園の保育内容や子どもの姿が分かるような発信をしている。	B	子どもの生活の様子を、園のブログや、クラスにドキュメンテーションを掲示して伝えている
3	保護者の状況を理解し、個人情報への漏洩に気をつけている。	A	園の重要事項説明の中で個人情報の取り扱いなどの了承を得て、漏洩に気をつけている
4	子育てのパートナーとして、保護者の子育ての大変さや悩みを理解している。	B	保護者の思いを理解するように努め丁寧に対応するように心がけている

## 6、子育て支援

1	地域に開かれた、日々子育てをしている親子を受け入れている。	C	毎週火曜日に子育て応援デーを設け、見学に訪れた親子へ案内したりしている
2	地域で子育てをしている親子の交流の場となるように努めている。	C	親子で、保育参加が出来るように応援デーを設けているが利用者が少ない
3	子どもの心身の発達や育児不安について、気軽に相談できるようにしている。	C	意見要望や相談受付窓口を設けているが、現在の所相談事例がない
4	園生活の子どもの様子を地域にも発信している。	C	ホームページを開設している

## 7、小学校や地域社会との連携

1	定期的に小学校と交流を行っている。	C	4歳児までの利用であるため、直接的な交流はないが法人内のこども園を通して交流したりし
2	定期的に小学校やこども園との会議や職員交流を行っている。	C	法人内のこども園が中心となり近隣校区内の施設が集まり情報交換をすることがある
3	高齢者施設との交流を深め、高齢者の方を敬う気持ちを育てている。	A	近隣の高齢者施設と積極的に交流を深めている

A:よくできた B:できた C:一部改善が必要 D:改善しなければならない

## 園全体の評価

開園5年目にあたる今年度、保育所保育指針の改定に鑑み、園として家庭的な異年齢クラスを取り入れ子ども達の主体性を重視した保育を目標に取り組んできました。

0歳児と1歳児の合同クラス、2歳児は(部分交流)、3歳児と4歳児の合同クラスに編成し、

①「子ども達への指示・命令・禁止語を出来るだけ使わない」

②「子ども達を無駄に待たせない」

③「子どものやる気を引き出す」を意識して保育を行っていく様に心がけてきました。

これまでの設定保育を中心とした、保育士主導の保育のあり方に慣れていた職員たちは、ずいぶん戸惑い、悩み、その都度話し合い改善して行く中で、まだまだ改善途中ではありますが、少しずつゆとりを持った保育の関わりが出来るようになってきました。子ども達も生き生きと、自分で遊びを選び集中して遊び込む姿が多くみられるようになり、異年齢交流の中で、言葉の獲得や生活の自立へ向けての意欲が前年度に比べ増してきているように感じています。

これは、全職員が当園を利用しているすべての子ども達を把握し、全職員が、どの子にも声を掛け、関わりを持ってきたことで、子ども達は安心して園生活を過ごせている成果だと思えます。

また、保護者の方からも、行事後や定期的にアンケート調査を行い感想やご意見を確認していく中で「どの職員も明るく声をかけて頂き、話がしやすい。」

「子どもが、休みの日でも保育園に行きたがる。」

「子ども達の成長に合わせて丁寧に関わってくれていると感じる」等の感想を頂いております。

今後の課題としては、異年齢保育に取り組んできた中で、幼児クラスでは相乗効果があり、子ども達の成長発達に良い影響が出ていると感じられるが、0・1歳児においては、月齢による発達の差が著しく、個別対応の難しさが浮き彫りになり、職員配置や環境構成を見直し、一人一人に丁寧に関われる工夫改善が必要。

また、地域社会との連携において、交流が少なく地域の子育て世代の方が気軽に立ち寄り体験や相談できる環境作りに努めたいと思います。